

## 令和6年度第1回第4次子どもかがやきプラン推進委員会の報告について

### 1 開催日時

令和6年7月4日（木） 10:00～12:00

岐阜県庁 17階会議室にて開催

### 2 概要

「第4次子どもかがやきプラン アクションプラン2024」の施策内容及び特別支援教育における課題及び取り組むべきことについて、意見を聴取した。

### 3 委員から出された主な意見

- ・郡上特別支援学校の一校舎体制は進めていただきたいが、特別支援学校設置基準を満たしていないとしてアクションプランにあがっている学校の他にも、実際に教室不足、老朽化して壊れている部分のある学校もあるため、早急な整備をお願いしたい。
- ・学校が子どもたちにとって安心して学べる場所であるための最低限の基準が特別支援学校設置基準であると考え、設置基準を満たしていない学校については、なるべく早急な対応をお願いしたい。
- ・特別支援学校設置基準に則って整備を進めていただきたい。また、できる限り整備のスケジュールをもう少し具体的に示してほしい。
- ・トイレが老朽化している学校もあるため、トイレの改修を進めてほしい。
- ・就学区域が広い学校や2校舎体制の学校など、通学に不便な学校があるため、スクールバスのさらなる充実をお願いしたい。
- ・泊を伴う活動時にも看護師が同行できるようにしてほしい。
- ・高校通級については、成果を感じており、引き続き人材育成ということに取り組んでいただきたい。また、高等学校における通級の必要性を職員にしっかり周知してほしい。
- ・障がいのある高校生に対する途切れのない就業・生活支援について、障がい者就業・生活支援センターと高等学校の進路指導担当が連携できるとよい。
- ・現在、高等特別支援学校と高等特別支援学校機能を有する特別支援学校の計3校に配置されている就労支援コーディネーターを、すべての特別支援学校に配置していただきたい。
- ・教員の負担に配慮したオンデマンド型の研修、特別支援学級や言語障がいの通級の担当者を対象とした研修を充実していただければということは大変ありがたい。
- ・特別支援学級の担任で指導について困っている方がたくさんいるため、その方たちを育てていく、人材育成をしていくことが課題である。
- ・教員の数が増えて負担が軽減されれば、余裕をもって子どもたちに接することができるのではないか。また、言語聴覚士、理学療法士のような専門的な知識がある方に小学校、中学校に来ていただくことができると、先生の負担も減り、専門性も向上するのではないか。
- ・大変若い先生が増えてきている中、専門性を高めていくための取組みについては引き続き推進していただきたい。
- ・視覚・聴覚・肢体不自由・病弱・軽度知的障がいの各専門領域に精通した人材を育

成するコア・スクールの取組みを継続しているが、対象となる障がいとして知的障がいそのものを入れてほしい。

- 東濃地域においても、高等特別支援学校機能を導入した学校の整備を進めてほしい。
- インクルーシブな社会をつくるためには、障がいがある人の家族だけが障がいについて知っていればいいわけではなく、みんなに知ってもらうことが必要であり、その周知のための取組みが必要である。